

## 脳卒中発症 知識備えて迅速対応



9月に赤平市で開かれた脳卒中の勉強会。ホームヘルパーら約60人が集まった

砂川市立病院勤務の専門医ら開催

# ヘルパー向け勉強会好評

【砂川】札幌医大神内

経内科助教で、砂川市立病院の脳卒中専門外来に出張勤務する齊藤正樹医師(42)らが4月から、介護従事者向け脳卒中勉強会を空知管内で開いている。発症から治療開始までの時間が生死や後遺症の有無に大きくかわるため、第一発見者になりやすいヘルパーらに発症の兆しを知ってもら

うのが狙いだ。勉強会は全国的にも珍しい取り組み。齊藤医師によると、介護従事者が脳卒中について学ぶ機会は少ない。講座は、今年4月か

ら美幌市で3回、7月からは赤平市で3回開き、口のもつれや手足の動きの左右差など発症の兆しや、基礎知識を伝えた。

毎回、ホームヘルパーや老人福祉施設職員ら50〜70人が参加した。10〜12月は砂川市で開く。

滝川市の介護支援事業所土筆は、ホームヘルパーら10人以上が赤平の勉強会に参加した。川口和代統括部長(42)は「心強い。医療や救急現場の用語などが分かり、救急車の呼び方もスムーズになった」と歓迎する。

土筆では、受講者が他のヘルパーと事業所内の勉強会も開催している。9月中旬には1人のヘルパーが50代男性の脳卒中の兆しを発見し、まひなどが残るのを防ぐことができたという。

齊藤医師は「勉強会を通じて、介護スタッフの社会的地位の向上にもつなげたい」と話している。

(荒井友香)